

小国開放経済における消費者の借入制約と そのマクロ経済学的影響

池田 晃彦 *

概要

本稿では、借入制約を含む非線形の動学的一般均衡モデルに資産価格と実質為替レートという2つの変数を同時に導入し、小国開放経済下の金融危機における両変数の相互作用の役割を検証する。本稿の枠組みでは、従来の研究と異なり、資産を担保とする借入制約における異なる担保資産間の比較、資産を担保とする借入制約と所得を担保とする借入制約の間の比較等、多様なモデルの比較を行うことができる。このモデルによる数値計算の結果、2つの事実が明らかになった。第1に、資産を担保とする借入制約の下では、担保が非貿易財部門で用いられる資産に偏っている場合ほど、危機による経済変動が大きくなる。第2に、資産を担保とする借入制約と所得を担保とする借入制約とを比較すると、前者の方が危機の増幅効果や実質為替レートの変動が大きい。これらの結果は、ストック変数である資産価格が、期待を通じて他の価格変数である実質為替レートと結びつくことが原因になっていると考えられる。したがって、以上の事実は金融危機の防止策を講じる際に資産価格と実質為替レートの相互作用に注目することの重要性を示すものといえる。

Keywords: 金融危機, Sudden Stop, 担保制約, 負債デフレーション, 資産価格, 実質為替レート

JEL classification: E44, F34, F41

* 京都大学大学院経済学研究科, Email: ikeda.akihiko.55z@st.kyoto-u.ac.jp